



特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2010 年度定時総会

日時：2010年4月7日（水）15:00～16:45

会場：山上会館（東京大学 本郷キャンパス） 大会議室

開会 挨拶

会長：木村 英紀

【議事】

1. 第1号議案：新役員の選任
2. 第2号議案：2009年度事業報告および2010年度事業計画案
3. 第3号議案：2009年度収支決算報告および2010年度予算案

【新役員紹介】

【2009年度活動報告】

- (1) 企画・事業委員会「長期方針検討状況」報告
- (2) 「社会デザイン調査研究会」報告
- (3) 「システム工学とナレッジマネジメントの融合調査研究会」報告

副委員長：大熊 和彦

主査：古田 一雄

副主査：小坂 満隆

閉会

■懇親会 17:00～18:00 参加費有料（お一人様 3,000 円）※会場は食堂

特別講演会 13:35～14:45

講演「希望学—希望を社会科学する」

玄田 有史氏（東京大学社会科学研究所教授）

目 次

【議事】

1. 第 1 号議案：新役員を選任

- *横幹連合 2010 (平成 22) 年度 役員 (案) p. 1
- *新役員候補の略歴 p. 2

2. 第 2 号議案：2009 (平成 21) 年度事業報告および 2010 (平成 22) 年度事業計画案

2-1. 事業報告および事業計画案 p. 3

2-2. 常置委員会の報告および計画

- 2-2-1. 企画・企画・事業委員会 p. 6
- 2-2-2. 総務・会員委員会 p. 8
- 2-2-3. 学術・国際委員会 p. 9
- 2-2-4. 産学連携委員会 p. 11
- 2-2-5. 広報・出版委員会 p. 13
- 2-2-6. 会誌編集委員会 p. 15

2-3. 委員会・調査研究会の報告および計画

- 2-3-1. 医薬品インタフェース調査研究会 p. 18
- 2-3-2. 人工社会調査研究会 p. 20
- 2-3-3. 経営高度化に関わる知の統合調査研究会 p. 22
- 2-3-4. システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会 p. 23
- 2-3-5. 社会デザイン調査研究会 p. 24

3. 第 3 号議案：2009 (平成 21) 年度収支決算報告および 2010 (平成 22) 年度予算案

- *2009 (平成 21) 年度 横幹連合 収支計算書 p. 25
- *2009 (平成 21) 年度 貸借対照表 p. 26
- *2009 (平成 21) 年度 横幹連合会計 利益処分案 p. 27
- *監査報告書 p. 28
- *2010 (平成 22) 年度横幹連合予算 p. 29

第1号議案:新役員の選任 2010年度横幹連合新役員(案)

横幹連合 2010年度 総会資料

◆NPO横幹連合 2010(平成22)年度 役員

役職		#	任期			氏名	所属	所属学会	推薦 母体	
			初就任	始	終					
会長	再任	1	2003.4	2010.4	～	2012.3	木村 英紀	(独)理化学研究所	計測自動制御学会	
副会長	留任	1	2009.4	2009.4	～	2011.3	原山 優子	東北大学	研究・技術計画学会	
副会長	再任(副会長としては新任)	2	2003.4	2010.4	～	2012.3	出口 光一郎	東北大学	計測自動制御学会	理事
理事	留任	1	2009.4	2009.4	～	2011.3	青木 和夫	日本大学	日本人間工学会	
理事	留任	2	2007.4	2009.4	～	2011.3	大熊 和彦	東京工業大学	研究・技術計画学会	
理事	留任	3	2009.4	2009.4	～	2011.3	太田 敏澄	電気通信大学	日本社会情報学会	
理事	留任	4	2009.4	2009.4	～	2011.3	田村 義保	統計数理研究所	日本統計学会	
理事	留任	5	2007.4	2009.4	～	2011.3	椿 広計	統計数理研究所	応用統計学会	
理事	留任	6	2009.4	2009.4	～	2011.3	布川 博士	岩手県立大学	日本感性工学会	
理事	留任	7	2009.4	2009.4	～	2011.3	平井 成興	千葉工業大学	日本ロボット学会	
理事	留任	8	2009.4	2009.4	～	2011.3	船橋 誠壽	(株)日立製作所	計測自動制御学会	
理事	留任	9	2007.4	2007.4	～	2009.3	山崎 憲	日本大学	日本シミュレーション学会	
理事	新任	1	2010.4	2010.4	～	2012.3	木野 泰伸	筑波大学	プロジェクト マネジメント学会	学会
理事	新任	2	2010.4	2010.4	～	2012.3	小坂 満隆	北陸先端科学技術 大学院大学	システム制御 情報学会	理事
理事	新任	3	2010.4	2010.4	～	2012.3	後藤 彰	(株)荏原製作所	可視化情報学会	学会
理事	新任	4	2010.4	2010.4	～	2012.3	税所 哲郎	群馬大学	経営情報学会	学会
理事	新任	5	2010.4	2010.4	～	2012.3	佐藤 吉信	東京海洋大学	日本信頼性学会	学会
理事	新任	6	2003.4	2010.4	～	2012.3	舘 暉	慶應義塾大学	日本バーチャル リアリティ学会	理事・ 学会
理事	新任	7	2010.4	2010.4	～	2012.3	玉置 久	神戸大学	システム制御 情報学会	学会
理事	新任	8	2010.4	2010.4	～	2012.3	仲谷 善雄	立命館大学	ヒューマン インタフェース学会	学会
理事	新任	9	2010.4	2010.4	～	2011.3	野口 昭治	東京理科大学	精密工学会	学会
理事	新任	10	2010.4	2010.4	～	2012.3	本多 敏	慶應義塾大学	計測自動制御学会	学会
理事	新任	11	2005.4	2010.4	～	2012.3	安岡 善文	(独)国立環境研究所	日本リモート センシング学会	理事
監事	留任	1	2004.4	2009.4	～	2011.3	鈴木 久敏	筑波大学	日本オペレーションズ ・リサーチ学会	
監事	新任	2	2006.4	2010.4	～	2012.3	西村 千秋	東邦大学	日本バイオ フィードバック学会	理事

注:初就任時期は任意団体の時期を含む

新役員候補の略歴

	略歴
木野 泰伸	1990年 関西学院大学理学部卒業 1990年 日本アイ・ビー・エム(株)入社 2005年 筑波大学大学院ビジネス科学研究科 准教授
小坂 満隆	1977年 京都大学大学院工学研究科修了 1977年 (株)日立製作所入社, システム開発研究所所長, セキュリティ事業部 事業部長を歴任 2008年 北陸先端科学技術大学院大学教授
後藤 彰	1981年 東京大学大学院工学系研究科修了 1981年 (株)荏原製作所中央研究所 2006年 (株)荏原製作所理事, 風水力機械カンパニー開発統括部副統括
税所 哲郎	1986年 中央大学経済学部卒業 1986年 日興証券(株)入社 2004年 関東学院大学経済学部助教授, 教授を歴任 2010年 群馬大学社会情報学部教授(予定)
佐藤 吉信	1974年 早稲田大学大学院理工学研究科修了 1974年 労働省産業安全研究所入所, 主任研究官を歴任 1992年 東京商船大学 商船学部 教授 2003年 東京海洋大学 海洋工学部 教授
舘 暲	1973年 東京大学大学院工学研究科修了 1975年 通産省機械技研入所, 主任研究官, 課長を歴任 1992年 東京大学教授 2009年 慶應義塾大学大学院教授
玉置 久	1990年 京都大学大学院工学研究科修了 1995年 神戸大学工学部講師, 2007年より教授
仲谷 善雄	1981年 大阪大学人間科学部 卒業 1981年 三菱電機(株)入社 中央研究所に配属 2004年 立命館大学情報理工学部教授
野口 昭治	1985年 東工大大学院理工学研究科修了 1985年 日本精工(株)入社 2002年 東京理科大学理工学部准教授
本多 敏	1975年 東京大学工学部卒業, 同助手 1986年 東京大学講師, 熊本大学助教授 1990年 慶應大学理工学部助教授, 1998年より教授
安岡 善文	1975年 東京大学大学院工学研究科修了 1975年 国立公害研究所入所, 国立環境研究所総括研究官を歴任 1998年 東京大学生産技術研究所教授 2007年 国立環境研究所理事
西村 千秋	1973年 東京大学大学院工学系研究科修了, 東京大学工学部助手, 講師を歴任 1989年 東邦大学医学部助教授, 1995年より教授

2. 第 2 号議案:2009(平成 21)年度事業報告および 2010(平成 22)年度事業計画案

2-1. 事業報告および事業計画案

(A) 2009 (平成 21) 年度事業報告

[1] 2009 (平成 21) 年度の概況

2009 (平成 21) 年度は、第 4 期科学技術基本計画など新たな科学技術政策の立案が進む中、横幹連合の理念が重要視され始めているとの認識を深め、自らの態勢を充実して次の飛躍に備える年であった。横幹連合の活動を裏付ける第 3 回横幹連合コンファレンスでは、200 名に迫る参加者を得て、確実な取組みが会員学会に広がっていることを実感できた。また、調査研究会を新たに 3 件立ち上げ、横幹連合としての知の蓄積への取組みを推進した。さらに、横幹技術協議会と連携して、技術フォーラムの開催に注力し、産業界からの関心を深め、産学対話の基盤作りが進展した。会誌、ホームページを通じて、幅広い社会とのコミュニケーションにも努めた。

会員の異動は、行動経済学会が新たに入会し、日本コンピュータ化学会が退会したことにより、本日現在の会員学会数は 40 学会である。

財政面では、収支実績は予算よりもよい結果となっているが、事業受託の努力が実らず、単年度では赤字となっている。事業の活発化に注力してゆくことは次年度の重要課題である。

2009 (平成 21) 年度の主な活動は以下の通りである。

- (1) 第 3 回横幹連合コンファレンスの開催 (12 月)
- (2) 横幹連合会員学会会長懇談会の開催 (12 月)
- (3) 第 3 回横幹連合総合シンポジウムの準備 (12 月～)
- (4) 第 4 期科学技術基本計画に関する声明発表 (12 月) と総合科学技術会議への提言 (1 月)
- (5) ICCAS-SICE2009 での企画セッション開催と展示 (8 月)
- (6) 調査研究会活動の開発と推進
 - ①社会デザイン (2008/04-2010/03)
 - ②システム工学とナレッジマネジメントの融合 (2008/04-2010/03)
 - ③医薬品インタフェース (継続・新規 2009/04-2011/03)
 - ④人工社会 (新規 2009/09-2011/08)
 - ⑤経営高度化に関わる知の統合 (新規 2010/01-2011/12)
- (7) 会誌「横幹」の刊行 Vol.3 No.1 (4 月)、Vol.3 No.2 (10 月)
- (8) 横幹連合ニュースレターNo.17～No.20 の発行
- (9) 横幹技術協議会との連携活動
 - ①横幹技術フォーラムの開催 (第 20 回～24 回)
 - ②横幹技術協議会経営 WG と調査研究会 (経営高度化) との連携
- (10) 企画・事業委員会を中心とした長期方針への取組み

[2] 第 3 回横幹連合コンファレンスの開催

- ・日時・場所：2009 年 12 月 3～5 日、東北大学片平さくらホール (仙台市)
- ・メインテーマ：「コトづくりの可視化」～40 学会がみちのく・東北に集う合同コンファレンス～
- ・プログラム

特別講演「<場所>と<あいだ>:知の統合への哲学的アプローチ」野家啓一 (東北大学理事)

特別企画「シンセンオロジー (構成学): 知の統合を目指す学問体系」横幹連合・産総研合同企画

特別討論セッション「横幹科学技術は“ものづくり敗戦”を防ぐことができるか」

体験型企画：イノベーションゲーム

講演セッション(27 セッション・131 講演)

- ・実行委員会

実行委員長 出口光一郎 (東北大学)

総務・会計委員長 帯川利久 (東京大学)

プログラム委員長 能勢豊一 (大阪工業大学)

・登録者数：194 名

[3] 第3回横幹連合総合シンポジウムの準備

- ・日時・場所：2010年9月5日（日）～6日（月）、早稲田大学 早稲田キャンパス（東京都新宿区）
- ・メインテーマ：横幹科学技術の新局面
- ・統計関連学会連合との共催（2010年統計関連学会連合大会との併設）
- ・実行委員長：田村義保（統数研）

[4] 第4期科学技術基本計画への提言

理事会に提言起草委員会を設置し、3つの提言

- ・提言1 科学技術の新しい役割と統合知の重要性をこれまで以上に明確に盛り込む、
 - ・提言2 統合知を深め生かす研究システム構築のために「新統合領域」を重点領域として立ち上げる、
 - ・提言3 統合知を担う人材の育成を推進しそのための社会環境を整備する、
- から成る文書を起草した。第3回横幹連合コンファレンス会期中の12月4日に開催した会長懇談会で、本文書を承認し、ホームページに声明として掲載、文部科学省に事業仕分に関わる意見として提出した。さらに、1月25日に、総合科学技術会議相澤益男議員に提出し、意見交換した。

[5] 横幹技術フォーラムの開催

横幹技術協議会と連携して、横幹技術フォーラムを5回開催した。

- ・第20回 SNSが切り拓くバリアフリー・コミュニケーション～企業内SNS最先端の活用事例～（6月3日、学士会館） 81名
- ・第21回 シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合～シリーズ第3回BSC（バランスト・スコアカード）の現状と課題～（7月31日、学士会館） 62名
- ・第22回 シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合～シリーズ第4回経営シミュレータとその課題（10月1日、筑波大学東京キャンパス） 41名
- ・第23回 社会・経済・金融を理解する数理工学の展開（11月17日、キャンパスイノベーションセンター） 72名
- ・第24回 21世紀のモノづくり革新をめざして（1月29日、文京シビックセンター） 83名

(B) 2010（平成22）年度事業計画案

[1] 2010（平成22）年度の方針

前年度の活動成果を踏まえ、また、重要課題に関する長期取組み方針の明確化に努め、以下の活動を推進する。これらの活動により、横幹科学技術の重要性を立証しつつ学術の研究を盛んにし、その普及をはかり、またその成果を社会に還元する。

- (1) 横幹連合の掲げる理念を具体的な社会施策に反映させるための活動
- (2) 横幹科学技術の学問としての確立に向けた活動体制強化
- (3) 産学連携活動の強化、特に横幹技術協議会との連携の強化
- (4) 会員学会との連携活動の拡大
- (5) 横幹連合活動の社会への浸透の拡大
- (6) 事業の活発化と経費削減による財務体質の強化

[2] 2009（平成21）年度事業計画（次ページに記載）

2010(平成 22)年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者 の範囲及び 予定人数
調査研究 事業(1)	<第3回横幹連合総合シンポジウム> これまでの、コンファレンス、総合シンポジウムの成果をさらに発展させ、 多分野のコラボレーションにより、社会的・産業的問題への横幹的アプロ ーチについて交流する。	9月	学界・産業 界から広く 参加を募る 200名
調査研究 事業(2)	<学術・国際委員会> 「学としての知の統合委員会」の活動を、具体的な課題設定の下で さらに掘り下げる。	1回 /月	成果は 一般に公表
調査研究 事業(3)	<調査研究会> 横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り 上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行い、 成果を公表する。新課題としては、人材育成等を取上げる。	4月～	報告書・フォー ラム等で、 一般に公表
調査研究 事業(4)	<プロジェクト活動> 横幹技術協議会と連携して、企業経営に資する横幹的アプローチ課 題(経営高度化、問題解決)を多分野の専門家と企業関係者で連携 して研究する。	4月～ 3月	産業界の 経営幹部
調査研究 事業(5)	<関連研究機関との連携> 前年度に続き、統数研・産総研との連携をより密にして、横幹的課 題への取組みを深耕、公開会合や出版に結びつける。		学界・一般 者
調査研究 事業(6)	横断型研究プロジェクト助成：複数学会分野にまたがる研究プロジ ェクトを公募し、助成を行う。	4月～	学界
調査研究 事業(7)	<受託調査研究> 複数学会分野にまたがる研究プロジェクトを受託する。	4月～ 3月	官・産・学
プロジェ クト事業	<プロジェクト事業> 産業界から提起される「横幹的アプローチを必要とする実問題」に 対して、多分野の専門家からなるチームを編成して解決にあたる。 (実費徴収)	随時	一般企業
普及啓蒙 事業(1)	<会誌「横幹」の発行> 横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深める ため、会誌を刊行する。とくに、読者拡大のため、電子化を進める。	4月 10月	一般者
普及啓蒙 事業(2)	<横幹技術フォーラムの開催> 主に産業界を対象に、横幹技術の先端研究成果を第一線で活躍する 研究者が解説する。また、産学の対話の場としても活用する。	隔月	産業界の中 核技術者・ 中核実務家
広報事業 (1)	<ホームページ> ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、 技術討論、会員学会との交流などを行う。英文化を進める。	4月～	一般者
広報事業 (2)	<パンフレット・ニュースレター等による広報> 横幹連合の活動の紹介、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベ ントの周知・広報等を行う。	随時	一般者
その他	<関連団体との連携事業> 主として横幹技術協議会との連携による普及啓蒙事業を行う。	随時	一般者

2-2 常置委員会の報告及び計画

2-2-1 企画・事業委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

■企画・事業委員会

委員長	原山優子	(東北大学、研究・技術計画学会)
副委員長	山崎 憲	(日本大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
副委員長	大熊和彦	(東京工業大学、研究・技術計画学会)
委員	帯川利之	(東京大学、精密工学会)
	平井成興	(千葉工業大学、日本ロボット学会)
	出口光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
	椿 広計	(統計数理研究所、応用統計学会)
	木村忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
	土谷 隆	(統計数理研究所、計測自動制御学会)
	神徳徹雄	(産業技術総合研究所、計測自動制御学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	高津春雄	(横河電機、計測自動制御学会)
	原 辰次	(東京大学、計測自動制御学会)
	藤井真理	(東京大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
	渡辺美智子	(東洋大学、日本統計学会)
	山本修一朗	(NTTデータ、プロジェクトマネジメント学会)
	村松健児	(東海大学、日本生産管理学会)
	稲見昌彦	(慶応義塾大学、日本バーチャルリアリティ学会)
	山本 栄	(東京理科大学、日本人間工学会)
	庄司裕子	(中央大学、感性工学会)
	増田浩通	(千葉工業大学、プロジェクトマネジメント学会)
	田村義保	(統計数理研究所、日本統計学会)
	本多 敏	(慶応義塾大学、計測自動制御学会)

常置委員会として全体会の他、第3回横幹コンファレンス委員会、第3回総合シンポジウム実行委員会を設置して活動した。原山委員長の公務多忙な状況を受けて、補佐する副委員長を2名配置した体制で活動した。

1. 全体会 (原山委員長)

ほぼ隔月に全体会を開催し、常置委員会の状況の報告と検討、企画・事業委員会の担当業務に関する議論などを行ってきた。「官との対応」に関連した官・政への提言、「関係学会等との連携」に関する活動は次のとおりである（「調査研究事業」に関する状況は別掲のとおり）。

今期は、第4期科学技術基本計画の政府内策定期間と並行していたので、木村会長・ワーキンググループによる提起・検討を基に、理事会等での議論や会長懇談会等での意見交換を踏まえ、「第4期科学技術基本計画への提言」をまとめ、科学技術会議有識者議員に木村会長・原山副会長らが面会し提言・説明した（平成22年1月25日）。また、政権交代に伴う新たな事業仕分けなどの動きに対する議論を踏まえ、文部科学省の意見募集に応えるかたちで「文部科学省関係の事業仕分けに対する声明」を発信（平成21年12月10日）し、学会ホームページ上にも掲載した。

関係学会等との連携活動としては、産業総合研究所・統計数理研究所との連携について、前期の合同ワークショップの成果を継承・発展させるかたちで、第3回横幹連合コンファレンスにおける合同セッション（第2日、平成21年12月4日）：特別企画「シンセシオロジー（構成学：知の統合を目指す学問体系）」を共同企画し、実施した。

2. 長期方針の検討会（原山委員長）

横幹連合の中長期的な展開方向と取組み課題を具体的に検討することを開始した。横幹連合各委員会・今期理事の問題提起や前期に収集した会員学会の意見などの整理を踏まえ、集中検討会を開催した（平成22年2月17日）。ここでは、参加者の問題提起や提言、問題意識の交換を行い、基本認識の共有を図るとともに、次年度に検討を継続することが合意された。

3. 第3回横幹連合コンファレンスの企画調整・実施（出口委員・理事）

隔年に開催されている横幹連合コンファレンスに対して、出口光一郎実行委員長（東北大学）、帯川利久総務・会計委員長（東京大学）能勢豊一プログラム委員長（大阪工業大学）の責任体制で企画調整・準備を進め、「コトづくりの可視化」をテーマに、平成21年12月3日、4日、5日に、東北大学片平さくらホールにて開催した（共催：横幹技術協議会）。

4. 第3回総合シンポジウムの実行委員会の組織化と開催調整、企画の推進（田村委員・理事）

隔年に開催されている横幹連合シンポジウムを、平成22年9月5日・6日に統計関連学会連合大会と同期・連携して早稲田大学にて開催することとした。対応体制として組織委員会・プログラム委員会体制を編制するものとし、組織委員長に田村義保理事（統計数理研究所）を選任し、取り組み体制の整備ならびに統計関連学会連合と調整を含め、企画調整を進めた。

5. 人材育成問題の検討（本多委員）

前期までの人材委員会（「横断型人材育成推進」調査委員会：佐野委員長）の成果を継承・発展させ、今後の継続的な取組みを検討することとした。前期の人材委員会でも活動された本田敏慶慶義塾大学教授を軸に、会誌「横幹」Vol.3 No.1 ミニ特集「横断型人材育成」などの成果にあげられた課題や論点の整理を行い、平成22年度に取り組み体制を立ち上げる計画である。

(B) 新年度の事業計画 -----

■企画・事業委員会

隔月を目途に全体会を開催し、理事会・運営会議と連携して、以下の活動を行う。

とくに今年度の横幹連合シンポジウムならびに人材育成問題については、担当体制を確立して対応活動を進め、委員会は活動の総括・調整を行う。

1. 第3回横幹シンポジウム

第3回横幹シンポジウムを、平成22年9月5日(日)6日(月)の2日間、統計関連学会連合大会に同期・連携して、早稲田大学で開催する。

2. 人材育成問題

これまでの取り組み成果を発展させ、横断型人材の育成と横幹科学技術教育の普及に資する活動を行う。必要に応じて調査研究会を設置する。

3. 新事業企画展開

横幹コンファレンス、総合シンポジウム以外の新企画を検討し、適宜、立案・実施する。

4. 長期方針策定

中長期的なスコープから横幹連合の課題と展望を明らかにし、重要課題に対する今後の取り組み方針を提起する。

5. 関係学会連携

当面、産業技術総合研究所及び統計数理研究所とこれまでと継続した連携活動を進める。当該活動を推進する横幹連合会長・副会長の支援を行う。

6. 政策関連主体・機関との関係構築

政策関連主体・機関との関係の構築・発展に努め、横幹連合の役割の発揮を期す。とくに第4期科学技術基本計画や今後の学術・イノベーション政策などに、横幹連合の主張が反映されるよう、継続して積極的な活動を行う。

2-2-2 総務・会員委員会

(A) 旧年度の事業報告

■総務・会員委員会

委員長	出口光一郎	(東北大学、横幹連合理事)
副委員長	田村 義保	(統計数理研究所、横幹連合理事)
委員	船橋 誠壽	(株)日立製作所、横幹連合理事)

総務・会員委員会の主課題として、(1) 横幹連合会員学会および各学会会員間の交流やサービス、(2) 健全な運営のための財政基盤の安定化、(3) 事務局体制の整備を設定し、これらについて以下のとおり取組んだ。

(1) 横幹連合会員学会および各学会会員間の交流やサービス

横幹コンファレンスを中心に以下を実施した。

- ・会長懇談会の開催：第4期科学技術基本計画への提言を審議し、学会ホームページに声明として掲載するとともに総合科学技術会議議員に提出した。これを通じて、会員学会の相互理解、学会連合の意義の深化が進んだと想定する。
- ・学会会員間の交流を促進するセッション構成：コンファレンス・セッションは、複数学会によって構成することを要請した。これにより、会員交流のきっかけを与えたと評価される。

(2) 健全な運営のための財政基盤の安定化

外部資金の導入策として、公募研究への応募等を行ったが、採択まで至らなかった。並行して、民間の支援団体の調査、研究公募前段階での意見提出など、事前活動を行った。

(3) 事務局体制の整備

事務局長の異動に対応するために、事務内容リストの見直し、事務局員の在任期間の調整を行った。また、2009年11月より事務局月報を作成することとし、事務業務の可視化の一助とした。

(4) その他

行動経済学会が2010年2月から入会。日本コンピュータ化学会が2010年3月で退会。

(B) 新年度の事業計画

■総務・会員委員会

2009年度に設定した課題は、いずれも、まだ解決には至っていないので、引き続き、今年度も継続して検討するとともに、できるところから行動に移して行く。とくに、会員学会へのサービス向上、財政基盤の強化のために、会員学会の増加、外部資金の獲得に努力する。

2-2-3 学術・国際委員会（学としての知の統合委員会）

(A) 旧年度の事業報告 -----

■学術・国際委員会（「学としての知の統合委員会」）

委員長	木村 英紀	(理化学研究所, 計測自動制御学会)
副委員長	松井 正之	(電気通信大学, 日本経営工学会)
	廣田 薫	(東京工業大学, 日本知能情報ファジィ学会)
	高橋 進	(東海大学/中央大学, 日本経営システム学会)
	池田 雅夫	(大阪大学)
	遠藤 薫	(学習院大学, 日本社会情報学会)
	大隈 久	(中央大学, 日本ロボット学会)
	岸本 一男	(筑波大学)
	小林 信一	(筑波大学, 研究・技術計画学会)
	櫻井 茂明	(株式会社東芝)
	杉江 俊治	(京都大学, システム制御情報学会)
	高間 康史	(首都大学東京)
	出口 光一郎	(東北大学, 計測自動制御学会)
	内藤 耕	(産業技術総合研究所)
	野本 弘平	(三菱電機株式会社)
	原 辰次	(東京大学, 計測自動制御学会)
	船橋 誠壽	(株式会社日立製作所, 計測自動制御学会)
	古屋 繁	(拓殖大学, 日本デザイン学会)
	村田 潔	(明治大学, 日本情報経営学会)
	深代 千之	(東京大学)

2008年度に当委員会は横幹科学技術の定義を行った。2009年度はそれをベースに横幹科学技術の体系化を目標に活動を行ったが、その目標のために編成したワーキンググループが必ずしもスムーズに機能しなかったために、目標をめざした十分な活動を行うことが出来なかった。

1. 2009年度の活動を示す

- 学術国際委員会第1回会合
「学としての知の統合委員会」第1回会合
日時 4月17日(金) 15:00-17:00
場所 筑波大学東京キャンパス
議題
1) 医薬品インターフェイス調査研究会報告
2) 社会デザイン調査研究会報告
3) 「安全安心調査研究会」の立ち上げ
- 学術国際委員会第2回会合
「学としての知の統合委員会」第2回会合
日時 7月23日(木) 10:00-12:00
場所 計測自動制御学会事務局会議室
議題
1) 「人工社会調査研究会」設置

- 2) 「安全安心調査研究会」立ち上げ
- 3) 「システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会」経過報告
- 4) JST 社会技術研究センタープロジェクト応募について
- 5) 今期の活動について

一 横幹科学技術の体系化

● 学術国際委員会第3回会合

「学としての知の統合委員会」第3回会合

日時 9月18日(金) 15:00-17:00

場所 大橋会館中会議室

議題

- 1) 知の構造化と美馬エンジン
- 2) 横幹科学技術の体系化についての作業計画

● 学術国際委員会第4回会合

「学としての知の統合委員会」第4回会合

日時 平成22年4月6日(火) 13:00-14:30

場所 文京シビックセンター区民会議室

議題

- 1) 「システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会」報告
- 2) 産業連携プロジェクトの報告
- 3) 来年度の活動計画

2. 本委員会では今年度からの活動を承認した調査研究会

- ・ 人工社会調査研究会
- ・ 経営の高度化調査研究会

(B) 新年度の事業計画 -----

来年度の活動方針

1. 今年度やり残した横幹科学技術の体系化の作業を進めたい
2. 国際化についての足がかりを得たい
3. 横幹連合のカバーする研究領域の現代的な意義について会員学会相互の間の共通認識を深めたい

2-2-4 産学連携委員会

(A) 平成 21 年度の事業報告 -----

■産学連携委員会

委員長	館暲	(慶應義塾大学、日本バーチャルリアリティ学会)
副委員長	椿広計	(統計数理研究所、応用統計学会)
委員	井上雄一郎	(横幹連合、計測自動制御学会)
	太田敏澄	(電気通信大学、日本社会情報学会)
	加藤俊一	(中央大学、日本感性工学会)
	酒井一博	(労働科学研究所、日本人間工学会)
	澤田一哉	(パナソニック電工、システム制御情報学会)
	榎木哲夫	(京都大学、ヒューマンインタフェース学会)
	下左近多喜男	(大阪工業大学、日本生産管理学会)
	苗村健	(東京大学、日本バーチャルリアリティ学会)
	平井成興	(千葉工業大学、日本ロボット学会)
	広田光一	(東京大学、日本バーチャルリアリティ学会)
	藤井眞理子	(東京大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
	船橋誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会)
	梅干野晃	(東京工業大学、日本リモートセンシング学会)
	本間弘一	(日立製作所、計測自動制御学会)
	松井正之	(電気通信大学、日本経営工学会)

【産学連携委員会】

平成 21 年度は、下記のとおり 4 回の産学連携委員会を開催した。

第 1 回「産学連携委員会」平成 21 年 7 月 8 日 (水) 15:00-17:00

慶應義塾大学協生館 6 階会議室

1. 産学連携に関する話題提供：山本修一郎氏 (NTT データ)
「将来社会の設計と産学連携」
2. 横幹技術フォーラムのテーマの現状報告 各担当委員

第 2 回「産学連携委員会」平成 21 年 9 月 14 日 (月) 15:00-17:00

東京大学 本郷キャンパス工学部 1 号館 5 階計数会議室 2

1. 将来社会研究会に関する討議と SNS サイト開設について
2. 横幹技術フォーラムのテーマの現状報告 各担当委員

第 3 回「産学連携委員会」平成 21 年 11 月 9 日 (月) 15:00-17:00

東京大学 本郷キャンパス工学部 1 号館 5 階計数会議室 2

1. 産学連携に関する話題提供：寺野隆雄氏 (東京工業大学)
「エージェント・ベース・モデリングによる社会システムの分析」
2. 横幹技術フォーラムのテーマの現状報告 各担当委員

第 4 回「産学連携委員会」平成 22 年 1 月 19 日 (火) 15:00-17:00

東京大学 本郷キャンパス工学部 1 号館 5 階計数会議室 2

1. 産学連携に関する話題提供：倉橋節也氏 (筑波大学)
「逆シミュレーション手法による人工社会の分析」
2. 横幹技術フォーラムのテーマの現状報告 各担当委員

【横幹技術フォーラム】

平成 21 年度は、下記のとおり 6 回の横幹技術フォーラムを、横幹技術協議会と共催で開催した。

コーディネータ	回数	テーマ	年月日	実施場所
太田	20	SNSが切り拓くバリアフリー・コミュニケーション ～企業内SNS最先端の活用事例～	6/3	筑波大学東京 キャンパス
椿・松井	21	シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合 ～第3回 BSC (バランススト・スコアカード) の現状 と課題～	7/31	学士会館本館 202 室
椿・松井	22	シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合 ～第4回 経営シミュレータとその課題	10/1	筑波大学東京 キャンパス
藤井	23	社会・経済・金融を理解する数理工学の展開	11/17	キャンパスイ ノベーション センター
澤田	24	21 世紀のモノづくり革新をめざして	1/29	文京シビック センター26 階 スカイホール
館	25	3D とバーチャルリアリティの最近の展開	4/5	キャンパスイ ノベーション センター

(B) 新年度の事業計画

■産学連携委員会

【産学連携委員会】

隔月で、年度 4 回程度開催予定。フォーラムの企画立案を行うとともに、企業側から見た産学連携の話題・課題についての講演とそれに対する質疑・討議を行い横幹連合における産学連携の礎を築く。横幹協議会からのオブザーバ参加を昨年度に引き続き積極的に呼びかける。

【横幹技術フォーラム】

平成 22 年度も、原則隔月で、奇数月 6 回程度開催の予定である。ただし、講演者の予定などで、前後の月に開催する場合もある。企画の詳細は、産学連携委員がコーディネータとなって立案し、産学連携委員会で議論され、横幹技術協議会の意見も反映しつつ確定され、横幹技術協議会と横幹連合の共催で実施する。

2-2-5 広報・出版委員会

(A) 旧年度の事業報告

■ 出版・広報委員会

委員長	西村千秋	(東邦大学、日本バイオフィードバック学会)
副委員長	青木克巳	(東海大学、可視化情報学会)
委員	山中 敏正	(筑波大学、日本デザイン学会)
	布川 博士	(岩手県立大学、日本感性工学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	坂本 隆	((独)産業技術総合研究所、日本感性工学会)
	原 尚幸	(東京大学、応用統計学会)
	村井 康真	(工学院大学、日本感性工学会)
	小山 慎哉	(函館工業高専、日本バーチャルリアリティ学会)
	高橋 正人	((独)情報通信研究機構、計測自動制御学会)
	武田 博直	(㈱セガ、日本バーチャルリアリティ学会)
	石川 聖二	(九州工業大学、計測自動制御学会)
	鈴木一史	(放送大学、日本感性工学会)
	川村 隆	(信州大学、日本ロボット学会)

2009 年度広報・出版委員会活動報告および今後の展望

(1) ニュースレターの発行

年 4 回 (4 月, 7 月, 10 月, 1 月) の定時発行を行った。これにより、ニュースレターは通巻 20 号を迎えた。

(2) ホームページの運営

横幹連合ホームページにおいて、連合および会員学会の活動や催事に関する情報を掲載するとともに、適宜更新・整備を行った。さらに、会誌「横幹」に関するページを新設し、バックナンバーへのアクセスも可能とした。

(3) 国際会議での展示

2009 年 8 月に開催された国際共同開催会議 (ICCAS-SICE2009) にて、英文パネルを準備して横幹連合の展示を行った。

(4) 今後の展望

横幹連合の理念と活動を広く周知させるためには、これまでの広報活動に加えて、国際的な情報発信、および横断型基幹科学技術に関する出版など、さらなる活動が求められる。これらについては、本年度基本的な部分について検討が行われたが、具体的な活動の進め方については引き続き検討課題とすることとなった。

(B) 新年度の事業計画 -----

1. ニュースレターの発行

年4回(4月, 7月, 10月, 1月)の定時発行を行う。

2. ホームページの運営

横幹連合ホームページにおいて, 連合および会員学会の活動や催事に関する情報を掲載するとともに, 適宜更新・整備を行う。

3. 広報活動のさらなる推進

横幹連合の理念と活動をさらに多くの人に広めるため, 英文ホームページによる情報発信や横断型基幹科学技術に関する出版等を推進する。

2-2-6 会誌編集委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

■会誌編集委員会

委員長	青木 和夫	(日本大学)
副委員長	大倉 典子	(芝浦工業大学)
委員	加藤象二郎	(愛知みずほ大学)
	金子 勝一	(山梨学院大学)
	榎木 哲夫	(京都大学)
	庄司 裕子	(中央大学)
	杉江 俊治	(京都大学)
	杉野 隆	(国土舘大学)
	椿 広計	(統計数理研究所)
	長嶋 雲兵	(産業技術総合研究所)
	奈良 高明	(電気通信大学)
	三宅 美博	(東京工業大学)
	山田 雄二	(筑波大学)
	山本 正宣	((株) シグナルコンサルタント)

横幹連合の会員学会の個人会員に読んでもらえる会誌を目指して会誌ホームページの作成、会誌の Web 公開などの事業を行うとともに、横幹連合の活動の記録として位置づけ、会誌の発行を行った。

1. 会誌のホームページの作成

会誌のホームページを作成し、公開した。URL は以下の通り。

<http://www.trafst.jp/journal/index.html>

2. 会誌の全文 Web 公開

会誌を Web で無料公開する件について理事会に提案し、1 年経過したものは公開するということで承認された。2010 年 4 月に会誌のホームページからリンクした富士技術出版のホームページにて第 3 巻第 1 号まで公開の予定。

3. 会誌第 3 巻第 1 号の発行 (2009 年 4 月発行)

巻頭言	知の統合学としての横幹学をめざして	舘 暲
解説：ミニ特集「横断型人材育成」		
	ミニ特集「横断型人材育成」に寄せて	佐野 昭
	横断型・融合型人材はなぜ必要か？	鈴木久敏 他
	文理横断と人材育成	遠藤 薫
	横断型人材育成における評価 —教育プロセスの評価と育成した人材の評価—	川田誠一 他
	大学・大学院における横断型人材育成の現状と課題	本多 敏 他
	企業における横断型人材育成の現状と課題	藤原靖彦 他
	横断型人材育成の推進に向けて	佐野 昭 他
論説	複雑化する人工物の設計・利用に関する補完的アプローチ	藤本 隆宏
解説	SICE City —生きがい創出都市—	篠田裕之 他
トピック	分野横断型アカデミック・ロードマップ合宿こぼれ話	大倉典子 他

会員学会紹介	ものづくり技術の核ー精密工学	水野 毅
	文理を横断する日本社会情報学会	遠藤 薫
	モノ・コト・社会を<情報>からみる	
	横断型科学技術の基盤を成すシミュレーション技術	山崎 憲
	ー日本シミュレーション学会の活動ー	
編集後記		三宅 美博
4. 会誌第 3 巻第 2 号の発行(2009 年 10 月発行)		
巻頭言	東洋思想と構成的方法論	中島 秀之
解説：ミニ特集「女性研究者の育成」		
	ミニ特集「女性研究者の育成」にあたって	庄司 裕子
	「女性研究者」が内包する課題とは？	原山 優子
	「科学技術振興調整費」による女性研究者支援施策	犬塚典子
	WISE Chuo：産学連携教育による女性研究者・技術者育成の取組	庄司裕子 他
	一般企業における女性技術者の活性化	内海 房子
	女性科学者・技術者が活躍する社会に向けて ーIEEE Japan	橋本 隆子
	Council Women in Engineering Affinity Group の紹介ー	
解説：ミニ特集「2008 年度分野横断型アカデミック・ロードマップ」		
	分野横断型アカデミック・ロードマップ策定事業	佐野 昭 他
	知の統合に関するアカデミック・ロードマップ	佐野 昭 他
	社会システムのモデリング・シミュレーション技術に関するアカデ	古田 一雄
	ミック・ロードマップ	
	人間・生活支援技術に関するアカデミック・ロードマップ	川村 貞夫
会員学会紹介	バイオテクノロジーー生物による物づくり	飯島 信司
編集後記		青木 和夫

(B) 新年度の事業計画 -----

■ 会誌編集委員会

引き続き会誌の定期発行を行う。

1. 会誌第 4 巻第 1 号の発行 (2010 年 4 月発行)

巻頭言	行動する横幹連合を目指して	原山 優子
解説: ミニ特集	「経営高度化への横幹的取り組み」	
	経営高度化のための知の統合を目指して	松井正之 他
	横幹技術フォーラムシリーズ「経営の高度化に向けての知の統合」	椿 広計
	報告	
	バランスト・スコアカードによる業績評価システムの構築	伊藤 和憲
	設計科学から見た IT 経営に関する社会調査の展開	角埜 恭央
	サービス生産性シミュレータの基本理念	岡田幸彦 他
論説	「課題解決型科学技術」が意味するもの	
	— 第 4 期科学技術基本計画への横幹連合からの提言	木村 英紀
会員学会紹介	品質工学会の活動紹介	浜田 和孝
	日本シミュレーション&ゲーミング学会とは何か?	鐘ヶ江秀彦他
編集後記		椿 広計

2. 会誌第 4 巻第 2 号の発行 (2010 年 10 月発行)

巻頭言		
解説: ミニ特集	「ロードマップのその後」	
解説: ミニ特集	(調査研究報告)	
解説	知の統合への哲学的アプローチ (仮)	野家 啓一
解説	協議会プロジェクト「日立プロジェクト (指静脈に関する, 万人不 同性証明の研究)」(仮)	柳川 堯
会員学会紹介		
編集後記		

2-3 調査研究会の報告および計画

2-3-1 医薬品インタフェース (継続)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■医薬品インタフェース調査研究会

設置期間	2009年4月～2011年3月	
幹事学会	日本人間工学会	
主査	土屋文人	(東京医科歯科大学、日本人間工学会)
副主査	大倉典子	(芝浦工業大学、日本バーチャルリアリティ学会)
幹事	木村昌臣	(芝浦工業大学、日本人間工学会)
委員	青木和夫	(日本大学、日本人間工学会)
	小松原明哲	(早稲田大学、ヒューマンインタフェース学会)
	三林洋介	(東京都立産業技術高等専門学校、日本人間工学会)
	古川裕之	(金沢大学、日本医療情報学会)

平成 11 年 1 月 11 日に起きた手術患者取り違え事故を契機とし、日本における医療事故防止への取組みが本格的に始まった。以来、厚生労働省主導による各種報告制度や警告制度の整備が進んでいるが、医薬品や医療関係者による検討だけでは、医療事故の防止に効果的な医薬品の表示の指針を明確にすることは難しい。

そこで本調査研究会では、人間工学やインタフェース、さらに横幹連合の各学会から広範囲の知恵を集め、この問題に取り組む、医薬品の表示の指針の策定に寄与することにした。

1. HCI International2009 におけるオーガナイズセッションの実施

2009 年 7 月にサンディエゴで開催された HCI International2009 において、オーガナイズドセッション「Safety of medication usage」を 7 月 22 日に実施し、アメリカとブラジルの同分野の研究者を含めて 7 件の発表を行なった。発表後、聴衆を含めて日米欧伯の医薬品の安全性の担保の現状について意見交換を行った。

2. 第 3 回横幹連合コンファレンスにおけるオーガナイズセッションの実施

2009 年 12 月に東北大学片平キャンパスにおいて開催された第 3 回横幹連合コンファレンスにおいて、オーガナイズドセッション「医薬品インタフェース」を 12 月 4 日に実施した。調査研究会メンバー以外に、統数研の藤田利治先生にもご講演いただいた。

3. イベント「製薬企業のための人間工学入門」の開催 (延期)

日本人間工学会医療安全研究部会との共催で、本調査研究会主査で同部会の部会長である土屋が企画し、上記イベントを 2010 年 3 月に東京医科歯科大学で開催予定であったが、諸事情により 4 月 17 日に延期となった。

4. 「医薬品の使用の安全に関する資料集」CD の発行

昨年度に発行した「医薬品の使用の安全に関する資料集」(冊子体)の CD 版を、上述イベントに合わせて発行することにした。(実際にはイベントが延期になったが、CD の作成は実施)

5. その他

数名の委員によるインフォーマルミーティングを、前年度よりさらに活発化し、概ね月に 2 回のペースで実施した。

(B) 新年度の事業計画 -----

■医薬品インタフェース調査研究会

2010 年度も引き続き、調査研究を継続し、医薬品の表示の指針の策定に寄与する。

1. イベント「製薬企業のための人間工学入門」の開催

日本人間工学会医療安全研究部会との共催で、2010 年 4 月 17 日に東京医科歯科大学で開催する予定。

2. AHFEI2010 におけるオーガナイズセッションの実施

1st International Conference on Human Factors and Ergonomics in Healthcare が 2010 年 7 月に Miami で開催され、そこでオーガナイズセッションを実施する。

3. 研究会の開催

「医薬品の安全」をテーマに、電子情報通信学会安全性研究会を開催する予定である。（開催日は未定）

4. その他

フォーマルおよびインフォーマルミーティングを実施して、2010 年度末には本調査研究会の活動のまとめを行う。

2-3-2 人工社会調査研究会 (継続)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■人工社会調査研究会

設置期間	2009年9月～2011年8月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
副主査	船橋 誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会/システム制御情報学会)
幹事	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 真吾	(早稲田大学、経営情報学会)
	寺野 隆雄	(東京工業大学、日本シミュレーション&ゲーム学会)
	鳥山 正博	(野村総合研究所、経営情報学会)
	小野 功	(東京工業大学、計測自動制御学会)
	山下 泰央	(中央三井アセット信託銀行、経営情報学会)
	木村 英紀	(理化学研究所)

本調査研究会の目的は、社会を構成するミクロな要素としての人間・企業・組織と、社会のマクロな構造を、マルチエージェント技術を用いて人工社会としてモデル化することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行うことにある。まず初年度は2回の会合を開催し、第3回横幹連合コンファレンスにおいて、人工社会セッションを持つことができた。

1. 人工社会の調査研究

人工社会研究の普遍化についてそれぞれの委員の研究成果から、特に以下について意見交換を行った。

- 1.1 人工社会研究の普遍的定理あるいは基本モデルに関して、従来どのような取り組みがされてきたか。
- 1.2 普遍的な基本定理・モデルを確立することは、どこまで可能で、課題はどこか。
- 1.3 その課題を克服する方法はあるか。

また、人工社会研究のマップをイメージし本研究会の位置づけを行い、短期・長期のゴールのイメージを共有するためのディスカッションを実施した。

2. 第3回横幹連合コンファレンスでの人工社会セッションの実施

人工社会：経営と意思決定のための新アプローチとして、以下の5件の発表を持つことができた。

コンピュータ上の金融市場における投資教育についての研究

山下泰央, 高橋大志, 寺野隆雄

ビジネス不確実性下での意思決定支援シナリオ分析の方法

高橋真吾

グリッド向け社会シミュレーションフレームワークの提案

楊超, 高橋徹, 倉橋節也, 寺野隆雄

人工社会による新規学卒者採用市場の研究

森敬子, 倉橋節也

エージェント・シミュレーションで最適な組織を知る

鳥山正博, 菊地剛正, 高橋徹, 山田隆, 寺野隆雄

3. 人工社会研究の問題領域可視化の検討

従来の経済予測等では困難な複雑適応系に対して、人工社会研究は何が貢献できるかを議論し、その中で、当該研究の問題領域の可視化を行う検討を開始した。特に、人工社会研究の基本モデルが未確立であり理論化が求められていることが確認された。

(B) 新年度の事業計画 -----

■人工社会調査研究会

2009 年度の活動で明らかになった以下の項目について、集中して調査研究を進める。

- 人工社会研究の問題領域
- 人工社会研究の適用可能領域

1. 人工社会研究の問題領域と適用可能領域の調査研究

研究はさまざまに進められているが、基本モデルがどこにあるのか

従来の経済予測等では困難な複雑適応系に対して、人工社会研究は何が貢献できるか

最適化問題との融合可能性など

2. 人工社会セッションの実施

横幹連合シンポジウムにおいて、人工社会セッションを開催し、研究成果の公表と横断的に議論ができる場を設ける。

3. 人工社会シンポジウムの検討

特に上記の基本モデルに関する問題意識において、調査研究成果を公表するシンポジウムの開催を検討する。

2-3-3 経営高度化に関わる知の統合調査研究会（継続）

■経営高度化に関わる知の統合調査研究会

設置期間	2010 年 1 月～2011 年 12 月	
幹事学会	日本経営工学会	
主査	松井正之	(電気通信大学、日本経営工学会)
副主査	椿 広計	(統計数理研究所、応用統計学会)
幹事	伊呂原 隆	(上智大学、日本経営工学会)
委員	大場允昭	(日本大学・日本経営工学会)
委員	鈴木久敏	(筑波大学・日本 OR 学会)
委員	白田佳子	(筑波大学・日本学術会議)
委員	中岡英隆	(首都大学東京・リアルオプション学会)
委員	角埜恭央	(東京工科大学・経営情報学会)
委員	藤川裕晃	(東京理科大学・日本経営工学会)
委員	伊藤和憲	(専修大学・管理会計学会)
委員	中邨芳樹	(日本大学・経営情報学会)
委員	斎藤嘉一	(日本大学・日本経営工学会)
委員	佐藤忠彦	(筑波大学・マーケティングサイエンス学会)
委員	中島健一	(大阪工業大学・日本経営工学会)
委員	岡田幸彦	(筑波大学・管理会計学会)

1. 研究の推進体制

次の二つのグループに分かれて研究を推進する

- ① ポスト ERP・SCM に関する研究グループ
- ② ビジネスシミュレーションに関する研究グループ

2. 2010 年度の計画案

4 月 21 日	キックオフミーティング
5 月	WG 別ミーティング
9 月 6 日	横幹シンポジウム(セッション)
1 月	中間報告会

以上

2-3-4 システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会

(終了/新規)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会

設置期間	2008年4月～2010年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	中森義輝	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)
副主査	辻 洋	(大阪府立大学、システム制御情報学会)
幹事	小坂満隆	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)
委員	船橋誠寿	((株)日立製作所、計測自動制御学会)
	松尾博文	(神戸大学、日本 OR 学会)
	栗栖宏充	((株)日立製作所、計測自動制御学会)

システム構造化や目的達成のための問題の構造化に優れているシステム工学的アプローチと、人間の創造的活動を活性化する知識マネジメント的なアプローチを融合することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行う。本研究会の Ph.2 では、具体的な課題（サービス、環境、情報社会）に対する問題解決方法論を議論し、新たな科学技術領域を確立することを狙いとした。以下は設定した実施項目と、それに対する成果である。

1. システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究

メンバーの持つ問題意識とその課題について、本テーマに照らし合わせた解決方法を議論することで、融合アプローチの必要性を再確認した。また、サービスサイエンスやサービスイノベーションの分野で展開した解決方法論を「横断型科学技術とサービスイノベーション」として書籍にまとめ、2010年3月に出版予定である。

2. 研究会、公開研究発表の実施

2008年9月（北陸地区）、2009年5月（関東地区）計2回の泊り込みの研究会を実施し、研究者間の相互理解を促進した。また、2009年12月に横幹連合コンファレンスにてシステム工学とナレッジマネジメントの融合に関する企画セッションを設け、研究発表を行った。

3. 技術領域確立の検討

システム工学とナレッジマネジメントの融合を新たな技術領域として、大学教育、技術者教育に反映する活動の一環として、北陸先端大社会人大学院 MOS コースの科目、「横断型科学技術論」、「IT サービスマネジメント論」を設け、講義を実施した。

(B) 新年度の事業計画 -----

■システム工学とナレッジマネジメントの融合に関する調査研究会 (Ph.3)

2年間の研究期間を設定し、委員にアクトコンサルティング(株)西岡由紀子氏を加え、本テーマの技術領域としての普及、定着を目指して、以下項目の活動を継続する。

1. システム工学とナレッジマネジメントの融合方法論の調査研究

システム工学とナレッジマネジメント融合の対象領域に、サービス設計、サービスイノベーション、サービスマネジメント等といったサービス研究を設定し、方法論の深化・体系化を進めるとともに、方法論の一般性と対象領域の拡大について議論する。

2. 研究会の実施

本テーマについて集中して議論する場として、年1回計2回の泊り込みの研究会実施を計画する。また、既存学会との共催による公開の研究発表会を適宜計画する。

3. 技術領域普及の検討

システム工学とナレッジマネジメントの融合を新たな技術領域として、大学教育、技術者教育に反映し、広く普及できないかを検討する。

2-3-5 社会デザイン調査研究会 (終了)

(A) 旧年度の事業報告 -----

■社会デザイン調査研究会

設置期間	2008年4月～2010年3月	
幹事学会	計測自動制御学会・ヒューマンインタフェース学会	
主査	古田一雄	(東京大学、計測自動制御学会)
副主査	寺野隆雄	(東京工業大学、経営情報学会)
幹事	下村芳樹	(首都大学東京、精密工学会)
幹事	菅野太郎	(東京大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員	内田祥士	(東洋大学)
	大澤幸生	(東京大学)
	岡本浩一	(東洋英和女学院大学)
	上 昌広	(東京大学)
	熊坂賢次	(慶応大学)
	西條辰義	(大阪大学)
	塩瀬隆之	(京都大学)
	高玉圭樹	(電気通信大学)
	高橋武秀	(自動車部品工業会)
	館山武史	(首都大学東京)
	西尾チヅル	(筑波大学)
	西田豊明	(京都大学)
	日高一義	(北陸先端科学技術大学院大学)
	矢田勝俊	(関西大学)

1回の研究会を開催するとともに、第3回横幹コンファレンスで3つのセッションを企画し、社会デザインの課題、技術的方法論、成功事例などに関して講演に基づいて議論することにより、社会デザインの現状の把握を深めた。

第4回調査研究会(6月29日):公共財供給の理論としての「ただ乗り」に注目した実験的研究について講演を聴き、社会デザインにおける非合理的な人間行動特性に関する議論を行った。また、受給者との関わりを中心としたサービスの提供プロセス表現法と、受給者視点での満足度評価を可能とするサービスの機能表現法に関する研究の紹介を受けて、社会デザインとサービス工学との関連性を確認した。

横幹コンファレンス企画セッション(12月4,5日):研究会から3つのセッションを企画した。「社会デザインへの横幹的アプローチ」では、社会デザインへのエージェントシステム、社会心理、認知心理、サービス設計、マーケティングなどによるアプローチが紹介された。「イノベーションゲーム:遊びが生むシステム知」では、アイデア生産手法として提案されたイノベーションゲームについて、その背景と手法が紹介され、さらに「イノベーションゲーム試行会・体験セッション」で参加者がゲームを実際に体験する機会を提供した。

(B) 新年度の事業計画 -----

■社会デザイン調査研究会

会誌「横幹」に報告記事として投稿・公開し、研究会は一旦終了する。

3. 第3号議案:2009(平成21)年度収支決算報告および2010(平成22)年度予算案

2009年度 横幹連合 収支計算書

2009.4.1~2010.3.31

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	2,270,000	2,325,000	▲ 55,000	102.4%	
2. 民間補助金	500,000	100,000	400,000	20.0%	
3. 繰越金	7,746,078	7,746,078	0	100.0%	
4. 事業収入	7,130,000	2,188,200	4,941,800	30.7%	
受託事業	4,000,000	0	4,000,000	0.0%	
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	0.0%	
コンファレンス	1,800,000	1,790,000	10,000	99.4%	
会誌	290,000	395,200	▲ 105,200	136.3%	
その他	40,000	3,000	37,000	7.5%	
5. 繰入金収入	0	0	0		
6. 雑収入	90,000	123,249	▲ 33,249	136.9%	
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
収入合計 (A)	17,736,078	12,482,527	5,253,551	70.4%	

支出の部

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	280,000	188,570	91,430	67.3%	
1.2 印刷製本費	20,000	51,801	▲ 31,801	259.0%	
1.3 通信運搬費	150,000	180,504	▲ 30,504	120.3%	
1.4 旅費交通費	154,000	271,660	▲ 117,660	176.4%	
1.5 人件費	2,650,000	2,674,832	▲ 24,832	100.9%	
1.6 消耗品・備品費	280,000	57,343	222,657	20.5%	
1.7 租税公課	60,000	2,000	58,000	3.3%	
1.8 雑費	100,000	0	100,000	0.0%	
小計	3,694,000	3,426,710	267,290	92.8%	
2. 事業費					
2.1 第3回コンファレンス	1,500,000	1,808,330	▲ 308,330	120.6%	
2.2 技術シンポジウム	0	0	0		
2.3 横幹技術フォーラム	100,000	0	100,000	0.0%	
2.4 学としての知の統合委員会	100,000	34,750	65,250	34.8%	
2.5 調査研究会	300,000	100,315	199,685	33.4%	
2.6 受託事業	3,500,000	0	3,500,000	0.0%	
2.7 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	0.0%	
2.8 広報費	300,000	71,577	228,423	23.9%	
2.9 ロードマップ	0	0	0		
2.10 会誌「横幹」	1,670,000	1,872,958	▲ 202,958	112.2%	
2.11 その他	650,000	156,454	493,546	24.1%	
小計	8,820,000	4,044,384	4,775,616	45.9%	
3. 予備費					
3.1 予備費	5,222,078	0	5,222,078	0.0%	
小計	5,222,078	0	5,222,078	0.0%	
支出合計 (B)	17,736,078	7,471,094	10,264,984	42.1%	
収支差額 (A-B)	0	5,011,433			

2009年度 横幹連合 貸借対照表
2010年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	99,014		
預金	4,979,574		
未収金	0		
立替金	7,759		
仮払金	0		
流動資産合計		5,086,347	
2. 固定資産			
什器備品	0		
基金	1,000,000		
固定資産合計		1,000,000	
資産合計			6,086,347
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,885		
前受金	0		
預り金	39,029		
借入金	0		
仮受金	32,000		
内部仮受け金			
引当金	0		
流動負債合計		74,914	
2. 固定負債		0	
負債合計			74,914
III. 正味財産の部			
正味財産			6,011,433
負債および正味財産合計			6,086,347

2009(平成21)年度横幹連合会計 利益処分案

(単位：円)

2009(平成21)年度収支差額 ￥5,011,433

利益処分案

2010(平成22)年度会計への繰越 ￥5,011,433

以上

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

平成 22 年 4 月 7 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事

印

(藤井 眞理子)

監事

印

(鈴木 久敏)

2010(平成22)年度横幹連合予算

(単位:円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,640,000	2,325,000	315,000	会員増(10学会)
2. 民間補助金	500,000	100,000	400,000	
3. 繰越金	5,011,433	7,746,078	▲ 2,734,645	
4. 事業収入	7,300,000	2,188,200	5,111,800	
受託事業	5,000,000	0	5,000,000	
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	
シンポジウム参加費・広告費	900,000	1,790,000	▲ 890,000	
会誌	400,000	395,200	4,800	
その他	0	3,000	▲ 3,000	
5. 繰入収入	0		0	
6. 雑収入	100,000	123,249	▲ 23,249	
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計 (A)	15,551,433	12,482,527	3,068,906	
支出の部				
1. 管理費				
1. 1 会議費	200,000	188,570	11,430	
1. 2 印刷製本費	50,000	51,801	▲ 1,801	
1. 3 通信運搬費	150,000	180,504	▲ 30,504	
1. 4 旅費交通費	150,000	271,660	▲ 121,660	
1. 5 人件費	2,650,000	2,674,832	▲ 24,832	
1. 6 消耗品費・備品費	200,000	57,343	142,657	
1. 7 租税公課	50,000	2,000	48,000	
1. 8 雑費	40,000	0	40,000	
小計 (k)	3,490,000	3,426,710	63,290	
2. 事業費				
2. 1 第3回コンファレンス/第3回シンポ	500,000	1,808,330	▲ 1,308,330	
2. 2 企画・事業委員会	120,000	0	120,000	
2. 3 産学連携委員会	80,000	0	80,000	
2. 4 学術・国際委員会	80,000	34,750	45,250	
2. 5 調査研究会	200,000	100,315	99,685	
2. 6 受託事業	3,500,000	0	3,500,000	
2. 7 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	
2. 8 広報費	180,000	71,577	108,423	
2. 9 ロードマップ委員会	0	0	0	
2. 10 会誌「横幹」	1,570,000	1,872,958	▲ 302,958	
2. 11 その他	120,000	156,454	▲ 36,454	
小計 (j)	7,050,000	4,044,384	3,005,616	
3. 予備費				
3. 1 予備費	5,011,433	0	5,011,433	
小計 (y)	5,011,433	0	5,011,433	
支出合計 (B=k+j+y)	15,551,433	7,471,094	8,080,339	
収支差額 (A-B)	0	5,011,433	▲ 5,011,433	

